

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 □住宅 ()
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 (補助金) □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 (建物状況) □新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
 〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー □多世代



写真 1. 建物外観

せんねん村では木のぬくもりのある建物で高齢者に質の高い個別ケアサービスの提供を行っている。また地域周辺との活動に加え、地球環境においても施設運営における重要課題であると認識し、地球環境の保全にも積極的に取り組んでいる。こうした中で運営側と利用者側がそれぞれの活動に専念（せんねん）できる取り組みを行っている。

施設概要

- ・所在地：愛知県西尾市平口町大溝7
- ・施設種別：特別養護老人ホーム
- ・事業主：社会福祉法人せんねん村
- ・設計監理：キット・プランニング+大久手計画工房(有)
- ・施工：戸田・山旺建設工事共同企業体
- ・敷地面積：14,300㎡
- ・延べ床面積：5,979.92㎡
- ・構造規模：鉄筋コンクリート造2階建て
- ・開所：2000年12月
- ・併設施設：ショートステイ、デイサービス、ケアハウス、介護よろず相談所（指定居宅介護支援事業所）、陣屋（西尾市地域包括支援センター）、ヘルパーステーション（指定訪問介護事業所）

運営概要

せんねん村は、誰もが健康で安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを進めるため、2001年から1000年先まで続くようにという願いで創られ、全スタッフの自主的な考え・判断のもと運営を行っている。また利用者には支配管理のない生活、最後まで人間らしさを大切にしてもらおう配慮を行っており、食事や入浴などそれぞれ

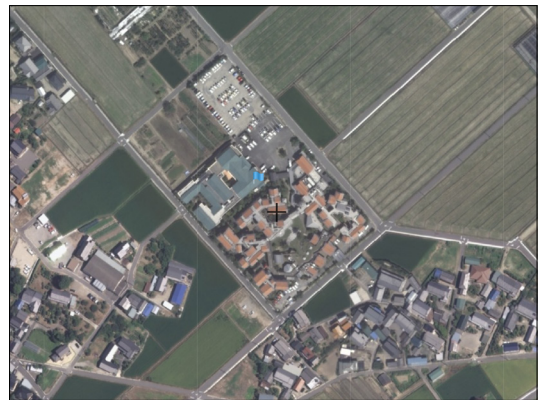


図 1. 立地周辺（国土地理院から引用）

公共交通機関を使う場合、最寄りのバス停は平口（福地線[六万石くるりんバス(西尾市)]）バス停からは徒歩1分。車では県道312号線を利用する。

図 2. せんねん村全体パース
(出典：せんねん村HP)

ご利用の方に日常生活を営むための必要な居室及び共用空間等を配置している。

れのスケジュールがあり、入居者の生活ペースに合わせたものとしている。個々の入居者の情報共有等をルール、手順書に従いながら入念に行っている。その中で使用するエネルギーも地球環境に配慮したものを使用し、環境保全にも取り組んでいる。

食事の面には気を配っており、管理栄養士と調理スタッフが高齢者の特性、地域利用者への配慮を考慮して5段階に分け、満足のいく食事を提供している。

建物概要

- ・建物の外観は周囲の風景になじむよう民家の屋根が連なるデザインとなっており、建物の影がすべて敷地内に落ちるなど、周辺に配慮している。
- ・仕上げ材には木や土壁、石材を多く使い、経年による、つやや汚れが味わいとなり、温もりのある空間を作っている。
- ・風の部屋と呼ばれる霊安室は、村で最も良い場所に配置され、扉の引き出し加減により、採光量や室内空間の印象をコントロールでき、死を忌み嫌わない当然のこととして受け止めるというコンセプトのもと、安らぎの空間となっている。
- ・コーヒーラウンジ・エントランスホール・芝生と中庭は地域にも開放されている空間でまた子供のための遊び場である、こどもの家など、地域町づくり間での多世代交流の働きの空間も配置されている。
- ・この土地に決まるまでは設計者との話し合いなどで時間を要したが、農地であるこの土地を、地域活性のための整備を図ったことで無償貸与を受けている。



写真2. 地域に開放した中庭

芝生・水辺づくり・石組のある地域の方との交流を創出する場



写真3. コーヒーラウンジ

日中は庭を眺めからテーブルで新聞を読む人の姿が見られた。また、月2回程度の木曜日には居酒屋として地域の人々にお開放され、ホームのフードサービス部で調理されたつまみなどが提供されている。

地域とのかかわり合い

地域に開放された諸空間での地域住民・入居者家族・子どもたちによるレク・イベントの多世代交流では、地域ボランティアを積極的に取り入れており、ホームの許可などを必要とせずボランティアの自主性に任せて行われている。また月2回開かれる居酒屋は地域に開いている。Kictwoodによる認知症ケアマッピングでは標準で6時

間、長い場合では13時間、直接介護に当たるスタッフに変わってマッパーが生活を記録し、ケアの様子をチェックする。ノンバーバル・コミュニケーションなど、スタッフが気付かないサインをチェックできることもある。

環境への配慮

地球環境の保全が施設運営における重要課題であると認識し、地球環境保全に積極的に取り組んでいる。方針として環境に関連する法令を遵守し、省エネルギーを推進して二酸化炭素排出量を抑制し、低炭素社会の実現を目指す。具体的な数値目標ではエネルギー使用量（原油換算）を前年度比1%削減することを目標に各諸室での空調温度を適正に設定し、照明の点灯管理を徹底、また給湯使用量の節減、高効率空調設備を導入などを行っており、一部太陽光の利用、中水・雨水利用による防火用水・水辺づくり・散布・トイレ水洗・洗車利用など敷地内設備面においても自然環境を考慮している。

見学時のヒアリング記録

〔見学日時 2008年7月11日（金）〕

地域に開放している芝生と石組みの中庭は、建物を通らず使用できるので管理しにくいだがそこが自主性を生み出す場である。

□ユニットについて

グループホームをいくつか連ねたタイプとして構想した。ユニット型^{注1)}であり、ユニット構成は「そら1・2丁目」「ゆうひ1・2丁目」「あさひ2丁目」の5ユニットで、それぞれ16人構成である。80人が入居可能で、「あさひ1丁目」はショートステイを含み、全体で計100床ある。ユニットの問題は、それぞれのユニットで生活が完結すると外に出なくなってしまう。そこで建物の内外からユニット間を行き来できるようにしたが、実際にはあまり行き来がない。また利用者の入居ユニット決定には力を入れており、医療を必要とする人の医務室に近い居室の確保や認知症の方にも周辺症状がなければ利用し



写真4. 居室の作り

木・漆喰・土壁などで統一した落ち着いたデザイン



写真5. 八角堂のコーヒーラウンジ

天井が広く取り多く集まる室であることから大空間にすることができる。



写真6. こどもの家

大工の方が作りすぎ、使えなくなってしまったので、こどもの遊び場所として開放することにした。

注1) ユニット型の新型特養（1ユニット10名程度）はせんねん村設立後にできた基準である。

てもらい、その後の良い意味でのほったらかしケアやケアマッピングの取り組みなどで過ごし方を記録し、ケアのヒントを得ている。

□居室について

居室の入口はできる限り印象の異なる、作りやデザインにしている。また居室においてはプライバシーが守られる半面スタッフルームからの死角や室内の備え付けの棚などが小さく私物の持ち込みが限られる。

□共用空間

- ・居酒屋として開放されている八角堂のコーヒーラウンジは、日中は庭を眺めからテーブルで新聞を読む人の姿が見られ、一角に施設長の作業スペースが設けられている。
- ・八角堂のテーブルや照明に代表されるように、建物内には空間寸法に合わせて作られたオリジナルの木工家具が設置されている。室内でも人工的な印象を払拭し、温かい空間づくりを実現している。
- ・食事については調理スタッフサポートの元、自主選択で取ることができ、一般的な家庭用の浴槽で個別にある程度自由に行うことができる。また露天風呂もありそこでは大人数で銭湯のように利用できる。
- ・エントランスホールは、パブリックスペースということで最も贅沢に造った。地域の方を羽化得入れやすい印象で各ユニットに直接行くご家族もいるが、入り口に立ち寄って記帳して行ったださる方が多い。ホールには、一部に照明と一体的になったフェイクの梁がかけられ、天井が高すぎて落ち着かない印象になることを防いでいる。
- ・「こどもの家」は、当初はケアマネの事務所にしようとしていたが、大工さんが作りすぎ、使えなくなってしまったのでこどもの遊び場所として開放した。

□管理諸室

- ・ケアマネのスペースは、事務室の2階部分に床を張って新たに作った。
- ・調理室は、全室がないため衛星管理上の点から望ましくないが、広く作ってあったため、後に機械が増えたときにも対応が容易であった。



写真7. 日常生活でたまり場となる廊下の作り
広く取り、落ち着いたデザインにインテリアの配備で休憩となる



写真8. 個別の用意された風呂
日常的な生活を提供するために個々に配備されていた個室風呂



写真9. バリアフリーと露天風呂の関係
共用風呂とつながっており、その移動の際に高齢者が安全に歩行できる配慮をしている。

参考文献

・せんねん村 HP <<http://www.sen-nen.or.jp/>>

(作成者：東京電機大学 原田豪 2020.11)



図3. 平面図

各ボリュームを小さくした民家のような配置